

平成28年7月定例教育委員会会議録

平成28年度塩尻市教育委員会7月定例教育委員会が、平成28年7月21日、午後0時30分、吉田原保育園・吉田原児童館分館に招集された。

会 議 日 程

1 開 会

2 前回会議録の承認

3 教育長報告

- 報告第1号 主な行事等報告について
報告第2号 8月の行事予定等について
報告第3号 後援・共催について
報告第4号 平成28年度 熊出没に係るスクールバスの増発対応

4 議 事

5 その他

- その他第1号 吉田原保育園・吉田児童館分館について

6 閉 会

○ 出席者

教育長	山 田 富 康	教育長職務代理者	小 澤 嘉 和
委員	石 井 實	委員	小 島 佳 子
委員	林 貞 子		

○ 欠席委員

なし

○ 説明のため出席した者

こども教育部長	岩 垂 俊 彦	こども教育部次長 (教育総務課長)	青 木 実
こども課長	青 木 正 典	家庭支援課長	百 瀬 公 章
生涯学習スポーツ課長 (新体育館建設プロジェクトリーダー)	中 野 昭 彦	平出博物館長	中 島 伸 一
男女共同参画・人権課長	熊 谷 善 行	市民交流センター次長 (子育て支援センター所長)	赤 津 廣 子
交流支援課長 主任学校教育指導員	小 松 秀 樹 確 井 邦 雄	図書館副館長	上 條 史 生

- 事務局出席者
教育企画係長

米 窪 昌 紀

1 開会

山田教育長 それでは、皆さんこんにちは。定刻前ですけれども、全員そろいましたので、ただいまから7月定例教育委員会を開催いたします。よろしく願いいたします。本日、中野市民交流センター長から欠席の連絡がございましたので、御承知おき願います。

初めに私のほうから挨拶をさせていただきます。7月も終盤となりました。甲信地方の梅雨明け宣言はまだ出されておられませんけれども、本格的な暑さが続いております。ことしの梅雨ですけれども、九州地方を中心に大雨が続き被害が深刻となっております。先の地震に加え、二重の苦難に直面されている地域もあるわけであります。このことに対しましてお見舞いを申し上げます。

2 前回会議録の承認

山田教育長 それでは、次に次第に従いまして2番、前回会議録の承認について事務局からお願いをいたします。

米窪教育企画係長 前回6月定例教育委員会の会議録につきましては、既に御確認をいただいております。本会議終了後に御署名をいただきますので、よろしく願いいたします。

山田教育長 それでは、よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

山田教育長 それでは、そのようをお願いをいたします。

3 教育長報告

山田教育長 続いて3番、教育長報告に入ります。それでは、私のほうから、本日は学校教育に関する1学期の概況についてと、先日行われました図書館に関する全国規模のフォーラムについて報告をいたします。

初めに、学校における1学期の概況について報告をいたします。これまでのところ、命にかかわるような大きな事故や事件がなく1学期の終了を無事に迎えることができる見通しとなっております。しかしこの1学期は、児童生徒また教職員の交通事故がかなり多く発生いたしました。安全確認の一層の徹底が求められているところであります。また、遊びや体育の授業、また不測の事態などによる骨折事故も目立って多かったように思います。1つの大きな事故の背景には29の小さな事故があるというハインリッヒの法則もありますので、まずは安全確認と注意の徹底によりどんな小さな事故も防いでいかなければならないと思っております。

次に、コミュニティ・スクールの取り組みについて報告をいたします。今月中は各中学校での今年度2回目の学校運営協議会が行なわれております。全市一斉にコミュニティ・スクールの取り組みが始まってまだ3カ月余でありますので、はっきりと目に見えた成果というわけにはなかなかいきませんが、変化の兆しというのが幾つか見られるのではないかと思いますので、具体事例を挙げたいと思います。

1つは、児童数の減少によって学級数が減ってくる傾向というのがあるわけですが、何とか1学年複数学級を維持しようと学校運営協議会が熟議の上で、協議会の意向として市の教育委員会に学区編成に関するお願いをしたいという意向を示すなど、これまでなかった当事者意識を持った取り組みをしていこうとする様子が出てきたことが1つ目です。

それから2つ目は、特別支援教育に関する支援ボランティアの要請や補修学習の支援ボランティアの要請などについて、それが必要となる学校の課題をこれまでなかなか地域の方々に、理解していただいた上でボランティアをお願いするということがなかったわけでありますけれども、学校の現状を隠すことなくオープンにして、そのところで依頼をしていくことによって適性のあるボランティアを一生懸命探していただいている、そういう事例が出てきております。より地域に開かれた学校への歩みを進めている例ではないかなというふうに思います。

また3つ目は、1校の読書活動支援部でよりよい読み聞かせのための研修をしたいと企画した一流講師を招いての研修会を、せっかくよい講師を迎えるのだからと市内各校の読書活動支援部や市内の関心ある方を加えてよりよい研修会をしようということになり、塩尻市読書活動支援部自主研修会として実施する運びとなったことです。

こうしたことのほかにも、学校運営協議会メンバーや地域教育協議会メンバーの横のつながりを強くしたり、リラックスして地域課題を話題にしたりしたいという幾つかの協議会で暑気払いをしながら、学校、地域のさまざまな点について話題にした、そんな報告も聞いているところであります。

このような動きを生かしつつ、2学期以降の取り組みについても各学校の特色、地域の特色を生かしたコミュニティ・スクールが推進できればと考えております。

学校関係では、このほかの不登校の状況、また特別支援教育指導主事を核とした特別支援教育の推進状況、また学力・学習状況調査の状況等については、次回以降また順次報告をさせていただきます。

次に、先日7月2日、3日に行われました「図書館総合展2016フォーラムin塩尻」と、その前日、7月1日に行われました「信州発・これからの図書館フォーラム都道府県立図書館サミット2016」について御報告をいたします。

こうした全国規模のフォーラムやサミットが地方の小都市で開催されるということはこれまであまりなかったことであるかと思えます。特に後者のサミットは都道府県立図書館の今後のあり方を考える会議で今回が初めてのサミットということでもありますので、なおさらそうした会議が塩尻で行われるということは例のないことではないかと思っていますところであります。それだけ全国的に塩尻市立図書館が先進的な図書館として認知されてきたからではないかなというように思っております。

こうした会議を通して、市立図書館に対するさまざまな感想、反響が会議の後、事務局等から届けられておりますので、届けられたメール等によって具体的にその幾つかを原文のまま紹介したいと思います。「えんぱーくの図書館は魅力ある図書館で十進法にとらわれずいろいろな工夫があって感心した。また、えんぱーくの見学は100名超えの大盛況、図書館員も皆レベルが高いと実感した。」また、みすず書房の持谷社長さんからは、「塩尻図書館の種々の取り組みと行政との関係も含め、地方の都市のあるモデルのような印象を受け感心しました。機会があれば図書館関係の皆さんにその旨をお伝えください」という声もありました。「当日学生さんを連れてえんぱーく見学、総合展ブース見学をされた信州豊南短期大学の図書館の方から、フォーラムin塩尻に参加できてとてもいい学外授業になったと報告がありました。学生からもよい感想ばかりで、特にえんぱーくの職員の方の意識の高さには感動したといえます。」というような声もいただきました。さらに、「本の寺子屋を初めとする塩尻市立図書館の活動紹介、また、これまでの歩みは、出版界の皆さんに図書館の可能性を大いに感じてもらえるものであったと思います。」といったような、さまざまな声が寄せられております。これまでの図書館の歩みの中で評価される図書館になってきているのだと感謝

するところであります。

こうした評価を受けると、現状でよしとしがちでありますけれども、本市の図書館ではさらに先へ進化を考えていただいているところであります。これから先は、これまでの図書館がやったことのないような、言ってみれば未知の領域へ足を踏み入れることにもなります。やりがいもあります。より一層の先見性と創造性が試されるところでありますので、これからの図書館をさらに進化させていきたいと思っております。

ただもう一方、図書館の原点でもあります幼児から高齢者までがより多く図書館に足を運んでいただき、図書館のミッションでもある読書による人づくりをバックアップしていくことや、そのために学校図書館や分館事業、さらに、「早ね早おき朝ごはん・どくしょの市民運動」などと連携強化を進めることについても、図書館が地域に根を張るためにも一層充実させていきたいと、そのように考えております。

本日は学校の1学期の様子、それから図書館総合展を通して、これからの図書館についてお願いをいたしました。以上で私からの報告を終わりにいたします。

委員の皆様方から今の報告に関して、また、この2つの点について感じるがありましたらお出しいただければと思いますが、よろしく願いいたします。

小澤教育長職務代理者 行事報告の後に述べさせていただきます。

山田教育長 では、行事報告を受けた後でそれぞれの委員さんからお話をお聞きしたいと思います。

○報告第1号 主な行事等報告について

山田教育長 それでは、報告第1号、主な行事等報告についてお願いいたします。資料の1ページから6ページまでそれぞれありますので、事務局より主要な行事について説明をお願いいたします。

青木こども教育部次長（教育総務課長） それでは、こども教育部からお願いいたします。最初に、1ページの1番目、6月21日の第1回塩尻市コミュニティ・スクール研修会、教育総務課の関係でございます。この研修会ですけれども、前段で第1回のコミュニティ・スクール連絡協議会を開催いたしまして、各協議会の会長、校長先生、コーディネーターの方で情報交換等を行い、後半に研修会という形で、教育委員の皆様方、学校の関係者の方などに御案内をいたしまして参加者約80人という結果でした。会場は、えんぱ一くの多目的ホールでございます。講師の先生ですが、政策研究大学院大学の客員教授、貝ノ瀬茂先生で、東京都の教員から指導主事等を経由しまして、三鷹市では教育委員長を務められております。コミュニティ・スクールを先進的に進めて来られた方ということで、基本的な内容について、塩尻市が取り組む上で知っておくべきこと等について講演をいただいております。ちょうどタイミング的にも、本市がコミュニティ・スクールを全小中学校でスタートしたところでありますので、わかりやすく学ぶことができたという状況でございます。以上です。

山田教育長 ありがとうございます。

中島平出博物館長 こども教育部の2番目の平出博物館の報告で2番目の大人の土器づくり講座について報告をさせていただきます。定員10名のところ、今回も10名ちょうどお集まりいただきまして、今回は山梨県や愛知県のほうから3人御参加いただいて2日間にわたり土器づくりをすることになりました。やはり、縄文土器そのものを見ながら縄文人の土器を組み立てるときの指の運びなんかについて1つ1つやりながらですね、土器をつくっていく作業を2日間にわたってやったわけですけど、非常に熱心に取り組んでもらいました。完成も非常に素晴らしいもので、お手元に戻るまでには焼きがありますので1カ月ほどかかりますけど、今その焼きの作業させていただいて

いるところであります。昨年あたりから土器づくりのファンもふえておりまして、今、土器づくりのサークルができつつありますので、今後、来年以降つくりたいなあと考えております。以上です。

小松交流支援課長 続きまして、市民交流センターの行事は3ページからになります。3ページの一番下、6月18日でございますが、ちびてつ（第1回）ですが、ちびてつというのは、ちびっ子哲学でございます。3歳から6歳の子供が信州大学の学生との交流の中で、考えるは楽しいという体験して、考える力を育む哲学講座でございます。初回は、今年初めてでございますので、友達って何ということについて紙芝居を使って子供たちに投げかけをしました。次回から一緒に考え子供たちの意見を聞くような講座になってまいります。年10回の開催の第1回目でございます。以上です。

上條図書館副館長 5ページ、6ページをごらんください。先ほど教育長報告の中で御紹介いただきました7月1日、2日、3日の日程で、全国規模の図書館フォーラムが開催されました。1日には、都道府県立図書館サミットということで、全国から都道府県立図書館の館長や職員、また市区町村立図書館の職員が中心に集まりまして、都道府県立図書館のあり方という点について議論を深めました。その役割の1つに都道府県立図書館と市区町村立図書館の連携、都道府県立側からの支援のあり方というようなこともございましたので、当館の職員もこれに参加いたしまして、これからの図書館のあり方について考えるよい機会となりました。

2日の図書館総合展2016フォーラム in 塩尻では、ここにありますように、岩波書店の社長、みすず書房の社長、原書房の社長、筑摩書房の社長など出版界を代表する今活躍中の皆さんが集まりまして、出版文化の現状と図書館が果たす役割というところを中心に据えて議論をしていただきました。塩尻市立図書館におきまして、本の寺子屋事業を中心にいたしまして、図書館だけでなく出版社、それから流通に携わる皆さんや書店、さらには著者の皆さんなどが連携して、図書館運営の基盤にある出版をどのように立て直していくのかというような視点で取組を進めており、大変参考になる内容でした。あわせて、この2日間は塩尻市立図書館の見学会、またフォーラムでは私どもの活動を紹介させていただく場面もございまして、職員も意識を高める機会になったと感じております。私からは以上です。

赤津市民交流センター次長（子育て支援センター所長） 私からは資料の6ページになります。一番最後のところですが、7月9日土曜日に開催いたしました「家族でおいでおいで祭り in えんぱーく」の御報告になります。こちらの「おいでおいで祭り」というのは、今までは支援センターが単独で行っていた行事ですが、今年度からは交流センターが会場であるので、交流支援課、図書館と3課一緒の実施ということで開催いたしました。

内容につきましては、人形劇、ふれあい縁日、工作ひろば等、いろいろなコーナーを設けて行いました。交流支援課の「工作ひろば」を担当していただき、また図書館の絵本コーナーを担当していただきました。職員ばかりでなく、毎年お願いしていますが、松本短期大学の学生さんにもボランティアという形で参加をしていただきまして、ここには載っていませんが、イクメンジャーショーですとか、動物ランドで絵本の読み聞かせ等をしていただきました。普段は支援センターのプレイルームに親子で来ているということが多いですが、こういったお休みを利用して家族で楽しんでいただいて、交流センターの中がどのようになっているかということを知っていただくいい機会になったと思います。参加者数ですが、そこに入っておりませんでしたけれども、各コーナーの集計ができましたので人数を入れていただきたいと思います。1, 232人の参加でした。以上です。

山田教育長 ありがとうございます。それでは、委員の皆様方から御質問、御意見等ありましたら

お願いをいたします。

石井委員 6月21日のコミュニティ・スクールの研修会では、非常に学校の参加が多いなと思いました。実際にどンドン動いているところもあるし、またボランティアの方々を集めるのに集まらないというような声もあるということをお聞きしまして、その質問にどうしたら人を集められるかというのは、私もすぐそばで質問しておりましたのでちょっと応援することはできませんでしたが、やはり広告だとかボランティアで人を集めるというのはなかなか無理なんじゃないかなと思っています。洗馬では、一本釣りで20名を集めれば、50名から60名は簡単に集まるなということで始めまして、今はその倍の120名のボランティアができております。これで、うんと活躍していただいているのは、熊の騒動がありまして、熊退治をするとか、交通安全の見回りをするとかというようなことには、この方々がずっと出ていただいて熊の行方を追ったり道筋を追ったりしてというようなことで、非常に先生方も感謝をしているというような状態ですし、過日、市長さんとお話ししたときに、熊は捕って放すんじゃなくて射殺していただきたいということで私のほうからもお願いして、市長さんもそれはもともとということで、早速二、三日後に1頭捕えまして射殺したという事例もありました。その後はちょっと音沙汰がまだないですけれども、これで安心というわけにもいきません。そんなようなところで、いろいろとコミュニティの皆さん方が働いてもらっているというようなことがありまして。きのう実は洗馬ではコミュニティ・スクールの反省会といいますか、今までの反省を含めて暑気払いをしたわけですけれども、非常に先生方一生懸命やっていただけるような状態になっておりまして、学校の先生方も非常にありがたいというようなことでおっしゃってございました。そんなことで、夏場の場合の事例と市の中の学校の調整というようなことももうちょっと考えたほうがいいのかあと考えているところで、御報告でございます。

林委員 ちょっとそれに関してよろしいですか。7月1日に広報のほうでコミュニティ・スクールの特集記事が掲載されました。今、洗馬の学校支援ボランティア、地域教育協議会のメンバーが120人もいらっしゃるということで、非常にうらやましい限りです。私が所属している吉田地区ですけれども、4月当初39名でスタートしました。近所の方に、その記事を見て、ちょっと俺も入らなくちゃいけないと思った方が何名かいたものですから、どんなもんかなあと学校のほうにお聞きしたところ、39名が46名になったというようなことで、少し増えました。コミュニティ・スクールの特集記事で皆さんに周知したことで、少し動きというのか、ちょっとやらなきゃいけないかなというような意識も芽生えつつあるのかなというような感触を私自身受けたのですが、事務局のほうにはそういった何か、動きがあるよというようなお話は来ているのかどうかちょっとお聞きしたいです。

青木こども教育部次長（教育総務課長） とりあえず現時点では、そういう情報は来てはいないようですけれども、池上コーディネーターのほうで各コミュニティ・スクールを回っておりますので、そういった中で7月1日の広報以後の状況等も把握していく予定です。

山田教育長 今、各学校で2回目の学校運営協議会を進めています。もちろんボランティアの数も大切にはなってくると思いますが、反面、学校のニーズと、またボランティアの思いというのを合わせていくこと、これもこれから課題になってくるのではないかと思います。学校のニーズとそれからボランティアの希望、要望等、コーディネーターはうまくつないで、マッチングをよくさせていくということが必要だと思いますので、全てのボランティアの方々が学校にかかわることができないこともあり得るということだと思います。ただ、先ほどの洗馬の例のように、数がいることによって非常に成果があらわれたという、安全確認、安全の確保というようなことについては、それが生きたんではないかなと思います。また、安全という意味ではこれから秋になると行なわれ

るさまざまな行事の中で、例えば遠足的な行事であれば、動物とか蜂とか緊急の事態への対応というようなこともあるので、そうしたときにはボランティアの方々が見守りを果たすことができるのではないかなと思います。

石井委員 その点で、一番私が心配しているところは、ボランティアの皆さん方の考えと学校の子供たちの考えがマッチングするかどうかということが一番問題ではないかなというふうに思っています。ボランティアの皆さん方は一生懸命張り切って、もう先へ先へ進んでいっちゃう。それが果たして子供たちが要求するものであろうかどうかなあという。きのうは話が出たんですけど、洗馬地区の民謡だったものを再現して子供たちに教えていこうとか、ささら踊りをやろうとかいうようなことで、笹の棒の器具をつくるためにオオヤブまで竹を買いに行ってきた人もいまして、ちょっと先走っちゃってどういふもんかなあなんて思って、そこら辺のギャップをうまく調整していかないと、ただボランティアの方々が見守りでやっていたんじゃないかなと思っただけですけども、そこら辺の調整がこれから難しいかなと思っています。

山田教育長 またそのあたりについては、池上先生とも十分話をしながら、市内の各学校の課題として大事に考えていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

石井委員 猟友会メンバーが洗馬には大勢いるものですから、やっぱり市長がこういうことで、射殺を認めてくれたという話をしたら、それならありがたいと、私たちもいるんですけども、鉄砲も打たないというような今まで状態だということで、非常に皆さん方喜んで、感動しました。

山田教育長 ほかの行事の点で。

小澤教育長職務代理者 学習ボランティアのことで、お願いします。先ごろ児童館へ学習ボランティアに行っている人の話を聞く機会がありました。それは、低学年のときから学習に困難を来している子供たちが結構目につくといいました。あの子たちが今後どうなるんだろうなあなんてことを話題にしてくれたわけでありまして。お聞きすれば、今現在、小学校、中学校での学習ボランティアの人数はまあまあそろってきている。一方、児童館のほうというのは、案外と視野の外にあるわけですね。そこで今度の学校運営協議会かどこかで、学校と児童館をセットに考えていただけないかということをお話ししていただければありがたいわけです。

山田教育長 学校と児童館をセットでという点について、事務局のほうは、どうですか。難しいところだと思います。

青木こども教育部次長（教育総務課長） 担当部署も違うので、それぞれで状況を把握しながら考えていくことになると思います。コミュニティ・スクールが立ち上がってボランティア活動も盛んになってきておりますので、検討させていただきたいと思っております。

小澤教育長職務代理者 各学校へそういう話題を提供しておいていただければ、また学校のほうで考えられると思いますので。

山田教育長 願うのは地域とともにある学校づくりですので、当然児童館も視野に入れていかなければいけないというように思います。

小澤教育長職務代理者 では、ほかのことで。

山田教育長 どうぞ。

小澤教育長職務代理者 先ほど来、話題になっております図書館のフォーラムとサミットの件であります。私は2日目、図書館フォーラムに参加させていただきました。2日目の後半、各団体や企業から多くの発表があった中、会場の方々は塩尻市の図書館に相当関心の度合いを高めたかなと思われました。それは、まず上條副館長さんが出ていただきました。力みのないというか、元気のある口調で、時にはユーモアを交えました語り口でありまして、非常に和やかな雰囲気を醸してくれたよ

うに思います。塩尻市の図書館が目指す方向は、報告の中からよく伝わってきました。

この中で私が共感したのは、図書館の向上は職員の資質向上抜きにしては語れない、そういう言葉でありました。これは、全てに通ずるものでありますけれども、業績と重ねたとき、説得力があり心に残った一文でありました。続いて、北澤さんという職員の方が、図書館職員の方々の日ごろの活動、アイデア、工夫、心がけ等々、そういうものの実際について語ってくれたわけでありました。北澤さんのひたむきな姿、これも非常に感銘を受けました。そこで、副館長さんや北澤さんのあの姿や説明から私がひそかに思ったことは、図書館の宝ともいうあの職員の方々の処遇といたしますか、待遇といたしますか、身分の安定といたしますか、そこら辺がきちんとなさされていて、あの宝の職員の方々が本当に安心して働ける状況になっているかどうかをめぐりました。多分なっていると思うんですけども、不満がたまっていってしまえば、あの積極的な姿勢が尻すぼみになってしまいますので、そこら辺の実情はどうなのかなということをおひそかに思ったわけでありました。これが1点目。

2点目は、塩尻市の図書館の大きな目玉の1つに本の寺子屋があります。春ごろ出版された本の中に、本の寺子屋は安曇野に住んでいる長田さんという方に負う部分が非常に大きいことが分かります。そして少し読みすすめると、長田さんが御病気だというようなことが書いてありました。これはちょっとおっかないなと思ったわけでありました。この先も、ずっと長田さんに頼ってはいけななと。今の絶好調の寺子屋のこの時だからこそ、次どうするんだ、その先どうするんだということを考えていかななくてはいけない、そんなことを思うんですけども、今後の見通し、ビジョンをお話いただければと思います。以上2点、お願いいたします。

山田教育長 図書館について、いいですか。上條副館長さん。図書館の職員の件、それから本の寺子屋の今後について。

上條図書館副館長 まず、職員の関係でございますけれども、現在図書館の職員は、館長以下37人おります。そのうち、正規職員が7人です。30人がいわゆる非正規の職員ということでして、そのうち18人が嘱託員、12人が臨時職員という処遇で雇用をしております。今お話の出ました身分の安定ということでございますけれども、これについては課題がございます。

といいますのは、臨時職員につきましては、市の制度として半年の雇用ですけれども、これを更新しながら複数年にわたって勤務をしていただいております。これは地方公務員法上の規定にも対応しております。その中で、いわゆる雇いどめという設定がされておまして、臨時職員については継続5年で雇いどめという方針がございます。小澤委員からお話がありました職員の資質ということですと、正直なところ4年、5年経験した時点で職員はかなり力量を高めて、さあこれから司書として活躍できるというところへ育ててきておまして、そこに雇いどめというところがあるものですから、そこをどのようにしていくかということにつきましては、歴代の館長も人事課等と折衝を繰り返してきております。今のところは、その5年の雇いどめというところで、私ども大変苦慮をしているという状況でございます。

嘱託員につきましては、これも市役所の中では原則5年ですけれども、資格等を有している職については7年ということでございます。図書館の司書についても、これは司書という国家資格でございますので、有資格者としております。司書という専門的な知識を有する職において重要な人材ですので、人材育成と安定的な雇用が課題であると考えております。

さらに、図書館指導員という処遇がございます。これは、現在2人おりますけれども、嘱託員として勤務成績が良好であり、かつさらに向上心があり、人材を育成する能力をつけてきた職員を指導員としております。全体といたしましては、嘱託員として勤めて力をつけ、さらにやる気があ

る職員については、指導員として安定的な身分で処遇するという現状でございます。

次に、本の寺子屋の今後というところでございますけれども、先ほど御紹介いただきましたように、長田洋一さん、これは河出書房新社で雑誌「文藝」の編集長を務められていた方が安曇野市にいらっしやいまして、今、本の寺子屋は、年間十数回という講演会を行っているんですが、その講師の何人か、かなり著名な方を長田さんの紹介で招聘することができているという状況で、これは本年度も同様でございます。体調面に心配があるというお話がございましたけれども、実は先日安曇野市に行きまして、本の寺子屋の今後につきまして長田さんと話をする機会がございました。その段階では今、体調はよろしくて、来年度の企画など、今後の具体的な進め方などを協議いたしました。本の寺子屋事業は、息の長い事業として今後も続けてまいりたいと考えておりますので、長田さんに頼ってばかりでもいけないということもでございます。

まだ正式に決定をしていることではありませんが、今後のあり方として、地域のことをテーマにしていけばどうかということがあります。長野県内という範囲が想定されますけれども、県内で市立図書館が人のつながりを広げながら、全国的に活躍されている作家の皆さんの講演会と並行して、長野県の出版文化について考える。あるいは長野県の歴史、文化などについて考えるというようなテーマで、寺子屋の一部を構成していくということも今後の方針の中では1つ考えられることではないかと思っております。また、先ほど紹介した岩波書店ほか出版社の各社は、いずれも長野県にゆかりのある皆さんでございますけれども、信州は出版社がほかの地方に比べて多いという伝統もございますので、そういう皆さんともつながりを強めながら、本の寺子屋の趣旨に沿った活動を地域に光を当てながら今後展開していくというようなことも塩尻市立図書館の強みにしていければなというようなことを現段階では考えているということでございます。またそのほかの御意見などもいただきながら、この事業に引き続き力を入れていきたいと考えております。よろしく願いいたします。

山田教育長 小澤委員さん、いいですか。

小澤教育長職務代理者 職員の資質の件でありますけれども、4、5年いれば相当に力量を高めている。さすがだなと思うわけでありまして。私みたいに度量の狭い者からすると、塩尻市の図書館のすごさを思う一方、もったいないと思います。できれば長く勤めて、力を出してもらおうような方向を開いていっていただければありがたいと、そんなことを思います。

それから、長田さんとも先を見据えて話し合いを持っている。また、地域というキーワードも新しく入れているということで、先へ先へと見通して下さっている状況をお聞きました。ありがとうございます。

林委員 ちょっと聞きたいのですけれども、正規の30名で、臨時の方が12名いらっしやると言いましたけれども、臨時の方っていうのもみんな図書司書の資格を持っていらっしやるんでしょうか。それと、あともう1点、分館のほうの職員の方っていうのはどういう立場なのかお聞きしたいです。

上條図書館副館長 臨時職員の雇用の条件に司書資格はございませんので、持っている方と持っていない方が混在しております。臨時職員には、19日勤務と15日勤務がありまして、月の勤務日数の上限に2種類あります。臨時職員で司書資格を有している方が、嘱託員のポストがあいたときに、いわゆる嘱託員に手を挙げてくださって、嘱託員に格上げしたという例も、今年度1名あり、過去にもございます。ですので、臨時職員で司書資格を持っている方については、臨時職員での勤務成績によって嘱託員への道が開かれるという状況でございますけれども、中には司書資格を持っていなくても有資格者と差がない、あるいはより前向きに仕事をしている優秀な職員もおりますので、そんなところの今後の雇いどめの考え方について、直近の課題として検討していきたいと考えてい

ます。

分館につきましては、分館の開館時間が午後だけの分館があり、開館時間が短いものですから、いずれも臨時職員でございます。司書資格を持ちながら分館で臨時職員を務めている方もいらっしゃれば、司書資格なしで司書の仕事をいただいている方もいらっしゃいますけれども、この皆さんは、本館に比べると週の勤務時間が短く、複数人でシフトを組みながら勤めているという状況でございます。

山田教育長 よろしいでしょうか。では、ほかの行事について御意見、感想、よろしいでしょうか。
〔「はい」の声あり〕

山田教育長 ありがとうございました。ほかにはないようでありますので、先に進みます。

○報告第2号 8月の行事予定等について

山田教育長 続いて、報告第2号、8月の行事予定等について、お願いをいたします。資料は7ページになります。全員と書いてあるところを確認してまいります。7日に高ボッチ高原観光草競馬大会があります。それから、25日が1時15分から定例教育委員会。次回の定例教育委員会は場所が短歌館となりますので、よろしくお願ひいたします。それから、29日ですが、塩尻西部中学校の主幹指導主事訪問となりますので、御参加をお願ひいたします。そのほか幾つかの行事が入っておりますけれども、関心のあるところについて、出かけていただき、様子を見ていただいて、また御意見をいただければありがたいと思います。御質問、御意見ありましたらお願ひいたします。よろしいでしょうか。

小島委員 質問をよろしいですか。今年初めて、11日に山の日がありますが、ここを見ると何も行事が書かれていないのですが、教育委員会関係、何かイベントとか、そういうものはないということでしょうか。山の日にあわせて。

青木子ども教育部次長（教育総務課長） 山の日については、市長部局のほうで対応があるということをお聞いしております、市長が参加する行事が予定されているということでございます。

小島委員 教育委員会としては別に何も無い。

青木子ども教育部次長（教育総務課長） 教育委員会としては、特には予定ございません。

小島委員 わかりました。ありがとうございました。

山田教育長 それについて御意見は。

小島委員 今日、たまたま松本市のことが新聞に載ってまして、塩尻市も何かあるのかなと思ひ気になったものから、済みません。

山田教育長 では、ほかにはよろしいでしょうか。それでは次に進めます。

○報告第3号 後援・共催について

山田教育長 報告第3号、後援・共催についてですが、資料は8ページ、9ページとなっております。御質問、御意見ありますでしょうか。

〔「なし」の声あり〕

山田教育長 なしということですので、次に進みます。

○報告第4号 平成28年度 熊出没に係るスクールバスの増発対応

山田教育長 続いて、報告第4号です。平成28年度、熊出没に係るスクールバスの増発対応についてです。資料、10ページですけれども、事務局から説明をお願ひいたします。

青木こども教育部次長（教育総務課長） それでは、資料No. 4、報告第4号をお願いいたします。

平成28年度の熊出没に係るスクールバスの増発対応でございます。昨年も熊対応による増発をしたところではありますが、本年度も、まず6月23日にふれあいセンター洗馬の近くで目撃がございまして、そこから以後、洗馬地籍で目撃情報がかなり報告されております。特に、目撃箇所の多くが小中学生の通学路エリアということがありましたので、登下校時の安全確保のために、現在スクールバスの増発を始めております。

対象の小中学校地区、1番でございますが、洗馬小学校については、芦ノ田、元町、太田、上組、下小曾部、岩垂ということで、上小曾部はもともとスクールバスでございますので、結果的に全児童が対象という状況になっております。それから塩尻西部中学校については、洗馬地区から通っている生徒49人が対象ということで、現在、小中合計で286人を対象としております。

期間でございますが、2番になります。7月11日から、28日の1学期が終わる日までということで、両校で13日間となりますけれども、バス会社のバスの確保等の関係がございまして、全13日は手配できないということで、8日間の対応可能な日について運行をしていただくということで進めております。

実施については、朝日観光自動車株式会社のほうに昨年に引き続いてお願いをしている状況でございます。

委託料についても、1台当たり大きな金額がかかりますが、20万円の8日間ということで、予算としては160万円ほどを、12月の議会で補正対応を予定してまいりまして、昨年と同じような対応をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

これまでの対応は、そちらにありますとおり、保護者送迎、学校教職員の付き添い、それから地域の皆さんの御協力とかもございましたけれども、長期化して負担も大きくなっている状況ですので、スクールバスの増発で対応させていただいたものでございます。

今朝の信濃毎日新聞にも、熊の関係の記事が出ておりましたが、県内では本年度、目撃が過去最多の541件ということだそうではございますけれども、塩尻市は、昨年度は同時期で30件くらいと、かなり多かったです。本年度はそれほど多くはないということで、松本管内も昨年よりは少ない状況だそうです。ただ、洗馬地区のほうでかなり頻繁に目撃されているということがありましたので、こういう対応とさせていただいたということでございます。以上です。

山田教育長 ありがとうございます。御意見、御質問等ありましたらお願いいたします。

石井委員 きのうも洗馬の住民が集まったときに、本当にスクールバスまで対応していただいてありがたかったということでみんな感謝しておりますので、御報告を申し上げたいと思います。市長さんを初め、スクールバスっていえばお金がかかるしな、なんていうような、渋い顔をしていましたけれども、教育委員会のほうでこういう具合にやっただけのこと、お礼を申し上げたいということでございます。これまでの対応の6番にありますけれども、今、猟友会なんかのほうで、要するに熊が通りそうなところをきちんとやぶや何かを整備して、なかなか熊が通りにくくするというのでやっただけでございます。それも効果があるんじゃないかなと考えております。以上が洗馬の住民の意見です。ありがとうございます。

山田教育長 それでは、よろしいでしょうか。今日の信毎の記事によると、これから夏、秋の山の熊の食糧によっては、また里へ出てくるんじゃないかという話や、つい2、3日前ですかね、北小野でもセブンイレブンの西山のあたりで熊が目撃されたというようなニュースも出ております。まだ木曾山塊には、熊がいるのではないかと思いますので、十分情報に注意をし、子供たちの安全に配慮してまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。

では、この件についてはよろしいでしょうか。では、先に進めます。

4 議事

山田教育長 本日は、議事についてはございませんので、その他へまいります。

5 その他

○その他第1号 吉田原保育園・吉田児童館分館について

山田教育長 その他第1号、吉田原保育園・吉田児童館分館について、本日皆さんには園児と一緒に給食を食べていただきました。また、施設も見ていただきましたところ。委員としての御意見を伺いたいと思いますので、質問や意見、要望、改善点、感想、いずれでも結構でありますので、それぞれ一言ずつお願いをしたいと思います。よろしくお願いします。じゃあ、林委員のほうからお願いいたします。

林委員 給食を子供たちと一緒に食べたのですけれども、子供たちは自分で主体的にどんどんどんんやるんですね。それには感心しましたし、1人飲み込みが苦手なお子さんがいましたが、きっとお家にいるとお母さんたちが甘やかして、もう食べなくていいよと言うんでしょうが、保育園では、じゃあ、これだけ食べようねと言って先生たちやお友達みんなが温かく見守って声かけてあげると、何となく子供は頑張っってそれに挑戦しようとするんですね。毎日の繰り返しで小学校へ行ったら普通の時間内で給食を食べれるようになっていけばいいなと思いつつ、集団ということで、子供がすごく伸びるということを目の当たりにしました。以上です。

山田教育長 ありがとうございます。小澤委員、お願いします。

小澤教育長職務代理者 この地域のたたずまいといえますか、景観についてであります。この吉田原保育園ができたより前の様子、それから吉田原保育園が改築する数年前の様子、そして今の様子、非常にさま変わりしてきました。吉田原保育園の旧園舎ができる十数年前、三、四十年前は開発途上の感がありましたが、今はこの園舎も改築されたこともあって非常にいいたたずまいです。言ってみれば高級住宅街化している雰囲気があります。この変容からして、公共施設がリニューアルするということは地域にとっては、地区が活性化する大きな要因であることが、改めて感じ取れます。こういう穏やかな、環境が整った中で子供たちが生活できるということは非常に好ましい、そんなことを改めて思いました。引き続いて、各地域でこういうような環境づくりが進められていくことを要望します。

職員の勤務状況です。私の訪問した教室は若い男性の先生でした。給食中、彼はほとんど立ち通しでした。子供に語りかけたり、お代わりを配ったり、片付けをしたりで、自分の食事は立って食べている姿でした。あれがいつもの姿であろうと思われま。頭が下がる一方、健康が心配されるわけです。すぐに改善できることではありませんが、何か、手立てをとりました。

山田教育長 ありがとうございます。続いて小島委員、お願いします。

小島委員 私、一番最初に感じたことが、駐車場がいいところに確保されていて、保護者の方も毎日の送迎に安心して利用されているだろうなと思いました。ただ、砂利で、ちょっと段差がありまして、こちらのほうにおりてくるのにちょっと坂になっていますので、今日は晴れているので別に気にならなかったんですが、雨が降っていたら、あの砂利道の段があるあそこに階段もなくて、どうなるのかなって、それは心配になりました。

あと、ここに入ってきて、先生方のどなり声っていうのを1回も聞かなくて、穏やかで子供たちも伸び伸びして、とてもいい雰囲気、ああ保育園ってこういう感じなんだなって、とっても

温かい保育園だなんてすぐ感じました。給食もおいしくいただいて、ありがとうございました。

山田教育長 じゃあ、石井委員、お願いします。

石井委員 まず、やっぱり畳の新しいってことはいいなと思いました。本当に子供たちもそのために明るくなっているし、一緒に給食をいただいたんですけども、非常に積極的に話しかけてきますね。そこら辺、洗馬の子供たちと若干違うかな、なんて思って見たわけなんですけども、これもやっぱり雰囲気がいいせいかな。やっぱり建物の効果っていろいろあるんだな、なんていうことを思いましたけど、非常に積極的にいろいろ話しかけてきてくれて楽しく食事をいただきました。そんなことでございます。

山田教育長 ありがとうございました。それでは、本日予定された案件、全て終了いたしました。

6 閉会

山田教育長 それでは、以上をもちまして7月定例教育委員会を閉会といたします。ありがとうございました。では、しばらく休憩をはさんで、この場で協議会を行いますので、よろしく願いをいたします。

○ 午後1時30分に閉会する。

以上